

第四通學道路の實現で地價騰貴

從つて敷地寄附纏る模様

けふ委員協議

平町第四小學校委員會は本二十日午後一時から同町會議室に開き、延長百間幅員四間、約四百坪の所有地主二十四名に對する寄附交渉の件を協議直に交渉に入ることになつたが右寄附交渉は通學道路開設に依り同方面の發展を促し地主側としては地價が當然高騰することになつたので比較的容易に纏まるものと見られてゐる

出荷減少

明日平農倉共販

平農業倉庫は明廿一日午後三時より飯米共同賣を行ふが本日午前中の申込數は五百五十俵で米價の値下りから出荷數も減少して居るが相場は矢張り値下りを豫想される

優良木炭獎勵に

特別荷票考案

濱三郡木炭同業組合では管

鐵	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
須	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	0
賀	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2

平第一校の耐熱行軍は都合に依り延期来る二十八日左に如く行ふ事になつた

明二十一日行ふ筈であつた

高行補手三年水野芳正

秋山清三壘同金成環

遊撃五年水野三郎左翼

△野球部

投手五年長瀬

一壘五年河田稔二壘同

代弘文

右翼同鈴木慶一

同石崎健次郎△庭

吉同關原定之△柔道初

球部五年篠原英任四

年小林一男同鈴木康男

同根本透補三年樋口儀

光四年遠藤吉雄同蛭田

四年遠藤吉雄中堅同矢

三小學校は來る二十八日父

兄を招待して兒童の唱歌會

を催すの下今廿日午前十時

から唱歌會の豫行を行つた

第一學力考査平第

二校の一學期學力考査は既

報の如く明廿一日全學年一

齊に行つた

第二學力考査平第

三小學校は來る二十八日父

兄を招待して兒童の唱歌會

を催すの下今廿日午前十時

から唱歌會の豫行を行つた

第一學力考査平第

二校の一學期學力考査は既

報の如く明廿一日全學年一

齊に行つた

第一學力考査平第

二校の一學期學力考査は既

車上から人を釣る

自動車助手の悪戯

湯本局遞送人飛んだ御難

▽自転車諸共引張る

手長小僧

上遠野村字根岸トラック業
最上鐵夫方助手森田鐵一
(え)假名は去る十五日午後
五時十五分頃磐崎村字藤原

より本炭を満載して平町方
面に向つて疾走中湯本町字
向田地内で湯本郵便局遞送

人志賀義松(三)に悪戯を勧
かんと故意にロープを投げ
つけ乗つてゐた自転車諸共
三間餘曳きづり幸ひロープ
は切れたが負傷させてその
まゝ逃走してゐたこと發覺

十九日平署に檢舉された

小名瀬町字古港生當時住所
不定伊藤正五郎(一)假名は
河原元小學校教員草野佳平
氏宅に忍び入りウオル
十八日午前相馬郡中村町字
中村署より平署へ指名手配
あつた

紅燈綠酒に酔痴れ

ネオンに生る人妻

哀れ乳呑児を抱ひて

涙の亭主が説諭願

内郷村大字綴字町ノ内一五
カフエーパッカス事小野丑

公方女給群馬縣佐波郡伊勢
崎町加藤彌五郎内縁の妻森

下コト(三)は去る五月卅一
日豫て知り合ひの同カフエ
一コツク田中千代松と謀し
合せて家出、たか子(三)を

一人残されて最愛の妻に家
出された彌五郎は血眼にな
つて行方検査中の處前記場

所に居ること判明したので
再三歸宅を迫まつたが、コ

申込漸増

ラヂオ体操

平局愁眉を開く

既報平郵便局主催で明廿一
日午前九時から平第三小學

校に開かれるラヂオ体操指

導者講習會は其の後局側の

宣傳に依つて本日正午迄に

四千名の志望者を見たが今

日中には六七十名には達す

るだろうと主催者側ではホ

ツとして居る

後六、二五 青年の時間

（尊皇愛國の志士平野國

臣先生）大高教授市村其

三郎 朗吟丸野不二男

三〇 講演「航空の見地より見たる國土防空

座

後六、二五 桃谷演奏所中繼

（島浦）桃谷演奏所中繼

連日記「チエウチエウ

漫畫劇「忠子のいた

時代」

後六、二五 子供の時間

（後六、二五）子供の時間

（後六、二五）講演「放送用

語と標準語」保科孝一

（後六、二五）講演「最近の

事実」笠間吳雄

（後六、二五）講演「物の始

り」（望遠鏡）本間清人

（後六、二五）お話「物の始

り」（望遠鏡）本間清人

（後六、二五）講演「放送用

語と標準語」保科孝一

（後六、二五）講演「最近の

事実」笠間吳雄

（後六、二五）講演「物の始

り」（望遠鏡）本間清人

（後六、二五）お話「物の始

原備前大垣大村の兵一千人これを二手に分けて一手は根津權現の社内に屯集中居る彰義隊を打ち一手は園子坂にむかつた、之は長州が先鋒すると根津權現の社内にゐた彰義隊は官軍を見ると谷中方面を指して逃げた、それを追ひ來た官軍、ところがこゝは坂道です、それに雨のために水が出てゐてその上官軍は地形を知らぬ、たゞ逃げるを追うて無二無三にすゝむ、ところへこの園子坂の寺々にしのび居つた彰義隊がドツと閻の聲をあげてうしろから玉をあびせた、その時に一旦逃げた兵がグルリと引つ返して來て官軍を前後から引込んで攻めた、そがために先鋒隊は亂れました

へと勝に乗じた彰義隊は千駄木まで追つて來たがこゝに竹藪がある、その間の細い路を追つて來たが、この時竹藪からおどり出したは長州の兵何れも槍を取つてそれが四五人一團となつて彰義隊の中央にどつと走めい、突いて入つたが何れもこの手に居るは勇士とてさすかの彰義隊もこれか爲

味方もこゝに全力をつくして戦つた、その折覺王院義觀は法衣の袖をむすんで肩に投げかけ白綾にて鉢巻をいたし銀の蛭まきなした黒柄の大薙刀をたつさへ飛び来る禪丸をものともせず黒門口へ駆け來り

廣小路の吳服店松坂屋の佛
上居つたは參謀の大村益次郎、軍事にかけては神上
いはれ西郷先生も大村の論では戦ひに關したことばへぬぞといはれた程、その大村益次郎が戦ひの變化を見てゐたすると今まで東北の風であつたのが急に東南に變つて廣小路に放した火が山内の方へ吹きつける

黒門口へ攻めよせた官軍
は是非ともこゝを踏み破つ
て山内に入らむとする。さ
はさせじと山王臺より官軍
をのぞんで玉をあびせる、
ドドーンバリ／＼ヒューッ
といふ音です。折柄雨はま
す／＼降りそぐ、それを
車ともせず兩軍入りみだれ
ての激戦、この時本郷臺よ
り進み来る官軍は長州左士

いていた薩摩隊・旭隊・松石隊が、臥龍隊が押出して官軍に斬り入つた。それが爲めにまことに、官軍はみだれ立つてドトツと引き退く、それ追

まり中にももつとも激戦であつたは黒門口、これは城にて申せば大手、ここを破られては城内に居る者はみな殺しになる。それゆゑ敵も

つてこのことをつげた。それがために山に居る兵士はと様な艱難にあうともそれををしのび夜になるまで官軍を押さへ付けておけばこの戦ひは勝利を得るところだ。一層士氣鼓舞して無理を戦ひを繼續した。かうなれば辛抱くらべ先方がつかむところには此方もつかれる。先方が眠くなる時には比奈

A vertical black and white photograph capturing a group of individuals, possibly a family or a small community, walking together. In the foreground, a woman in a long, light-colored dress carries a child on her back. Behind her, several other figures, including more children, are visible. They appear to be moving towards or away from a simple, single-story building with a visible doorway and window. The scene conveys a sense of daily life and movement.

に屯集いたし居る同志の者
一齊に官軍の背後をついて
われ／＼に助勢いたす、ま
た肥後藩及び紀州は當山に

益『ウームこれは早い風
吹き居る、イデヤ彰義隊
をみなごろしにいたして
れる』

英加
格
紳士靴

A black and white illustration depicting a man in traditional attire, possibly a sage or ascetic, standing in a doorway. He wears a turban and a simple robe. He holds a long, thin object, perhaps a staff or a scroll, in his right hand. The background features a landscape with rolling hills and a path leading through a gate. The style is reminiscent of traditional Indian book illustrations.

◎各種取扱いあります
自製注文靴は品質吟味…
期日迅速に…
御用命の程を…
電話六五九
平四マルトモ内

夜
性病科
皮膚科
性病科
花柳病科
胃腸病科
内科
門
専
院
醫
性病
胃腸
村松
（番〇七一町南町牛）
問
診
勉
菊地靴店
問
疗